



《震災復興における場所打ち杭工事》

～ 東日本大震災で被災したブルーインパルスの
松島基地を再建するための基礎杭 ～

要 旨

本現場は、2011年3月11日、東日本大震災の津波で浸水の被害を受けたブルーインパルスの格納庫を同じレベルの地震(津波)では被災しないよう約4m程かさ上げし、同じ場所に格納庫を再建するプロジェクトです。震災当日、ブルーインパルスは九州新幹線の開業セレモニーのため遠征して6機は被災を免れましたが残りの3機は津波により被災してしまいました。帰る場所を失ったブルーインパルスは、しばらく九州の芦屋基地に滞在しました。

松島基地再建の手順としては、曳き家により一旦格納庫を移動し、元の場所を4m盛土した上で杭を施工、格納庫をジャッキアップして元の場所に戻すという方法で行われました。

1. 杭工事概要

工 法：アースドリル式拡底杭工法
(KCTB場所打ち鋼管コンクリート杭)
杭仕様：軸径φ1,300/拡底径φ1,600～2,700
掘削長47m，杭本数34本
工 期：25年3月16日～25年5月10日

【品質管理】

盛土上の施工ということで、敷き鉄板を井桁状に敷き詰め、機械の水平を確保しました。

また孔壁測定は全杭測定を行い、スライム処理はスライムクリーナーにて実施したのちにコンクリートを打設しました。

3. 担当者のコメント

本現場は自衛隊の基地内ということで、様々な制約等もあり、普段以上に気を遣いました。

物不足・人不足の中で協力会社の作業員には、いろいろと無理をお願いしながらなんとか工期限内に杭工事を収めることが出来ました。

弊社関係者一同、東北の復興に従事している思いもあったのか、全面的に協力して頂きました。



佐々木現場担当

2. 施工方法

施工方法は、元の場所をかさ上げる為に、まず格納庫を曳き家により一旦移動し、既存の基礎を解体しました。

その後、盛土・整形・転圧をしてヤードを作成し、鉄板を敷き詰め、当社の機械を搬入し杭の施工を行いました。

その間に元請は格納庫を修繕しつつ、ジャッキアップを行っていました。

杭打設完了後、基礎を作り再び曳き家により元の位置に格納庫を戻しました。



曳き家後の盛土・整形状況

杭施工と同時にジャッキアップ



満開の桜の中での杭施工

4. 復興に想う

被災地にあつて様々な想いの中で、地元へ貢献したいという気持ちが物不足、人不足、またコンクリートが供給できなくて赤字になるのではと不安もありましたが、とにかく弊社(仙台支店)は地元へ根付いた会社であるとの信念で全社員、協力会社、元請も含め一丸となって施工を行う事が出来た現場であると思います。

時折、ブルーインパルスが我々への労いなのか澄んだ青空にハートのマークを低空飛行で描き一瞬、見入ってしまうこともありました。



5. まとめ

杭の施工完了後、松島航空自衛隊の施設部の方々、および元請けより御礼の言葉を頂きました。今後も地元へ根付いた会社であるとの信念のもと、社会貢献できるよう精進してまいります。